

## ＜第3回 若林地域会議 会議録＞

日 時 令和5年6月30日（金） 19:00～20:45  
場 所 若林交流館 多目的ホール  
出席者 委 員 16名  
事務局 後藤哲也部長、中川室長、成瀬支所長、吉澤副支所長、松原副主幹、中島主査、川合主査、倉地主事  
オブザーバー 森波館長

---

### 1 会長あいさつ〈省略〉

### 2 提言書授受

→会長から市長へ提言書の授受

### 3 市長あいさつ〈省略〉

### 4 提言内容説明

→会長より説明

〈太田市長〉地域会議は実行部隊という位置づけではない。だが地域会議委員は提言の内容を実行する組織に所属している人が多いので、その組織との連絡調整をスムーズに行ってほしい。

提言の内容に関しては、防災キャンプ等の大きなイベントについて、地域性の違う4地域でやるのは難しいのではないかと思う。例えば、外根自治区には外国人が多いという話であったが、防災訓練をしたときに言語の壁等を、外根自治区としての課題ではなく、若林地域の課題として受け止められるかが課題になるのではないか。

「地域を支える人づくり」を考えるとときに防災士という資格が将来に渡って必要であり続けるのか。今後の若林の防災には必須だということであれば、地域の中でしっかり合意形成をしておく必要がある。地域にはいろいろな人がいて、有事の際には全員が特色を活かしてリーダーになりうる。人材育成も大事だが、地域の人たちについて何が得意なのかを知ることが必要ではないか。

### 5 市長との意見交換

〈委 員〉地域住民の関係が希薄化していることに加え、地域行事の参加者の固定化が見受けられるが、多世代が参加するような政策は考えているか。

〈太田市長〉困難な問題であると考えている。現在の地域社会は他人の集まりになっている。その状況でもっと地域活動に参加するように言っても効果は薄い。それを改善するための最初のステップは声掛けであると考えている。声掛けを継続することで接点が生まれ、延いては地域のつながりになるのではないか。

声掛けについてはこどもの交通安全にも関連するものがあると思う。豊田市では現在「止まってくれてありがとう」という取り組みをしている。始めたきっかけは、都市交通研究所の研究で「～～禁止」より「～～ありがとう」がより効果的だとわかったから。現在こどもが横断歩道を渡る際は、地域の人たちが立ち、車を停めて安全を確保してから渡るということをしている。これではこどもが学ぶことが少ないのではないかと考えている。

〈委員〉 こども食堂が本当に支援を必要としている人に届いていないという話を聞いたことがある。福祉の支援が必要な人に、豊田市が持っている制度の情報を届けるためにしているアウトリーチはあるのか。または制度を利用しやすいようにしている工夫はあるのか。

〈太田市長〉 前提として豊田市のこども食堂は孤食を減らす目的で開かれている。こどものみならず、一人暮らし高齢者の孤食もこども食堂の目的の1つである。こども食堂の支援を必要としている人というのは、困窮家庭を指していると思うが、困窮家庭に関してはこども食堂の頻度では本当の解決にはつながらず、その日食べるものがないという状況であれば生活保護等の制度を利用すべきである。

福祉の支援が必要な人に届いてない状況に関しては、地域が見つかることが重要であると考えている。支所には「福祉の相談窓口」の機能があり、状況に応じて適切な相談窓口につなぐ仕組みが作られている。地域で発見した際には支所へつないでいただきたい。

〈委員〉 地域会議が実行部隊ではないとのことだが、今後地域会議はどういうことを話し合うことを求めているか。

〈太田市長〉 地域の中には難しい課題が多々ある。地域会議には地域が課題として認識しているが、現状手を付けられずにいる課題について、深掘りをしてほしいと思っている。もしくは区長会や民生委員児童委員等の組織から提案して、その提案された議題について議論するのも良いのではないか。

## 6 その他

(1) 次回の若林地域会議について〈省略〉

### ★次回開催

令和5年7月27日（木）午後7時から 場所：若林交流館 多目的ホール